

〔保元物語二〕白河殿攻落事

眞盛此頸ヲ取テ、太刀ノ先ニ貫キ指舉テ、略中 我ト思ハン人々ハ、寄合ヘヤ寄アヘヤトゾ呼リケル、

〔平治物語二〕義朝敗北事

義朝八瀬ノ松原ヲ被過ケルニ、跡ヨリヤ、ト呼聲シケレバ、何者ヤラント見給ヘバ、略下

〔新撰字鏡〕口嗽古甲反、咄也、

〔伊呂波字類抄〕左人事叫亦作評 喘 喚 咄 嗽 號 諱 嗔 已上同

〔同聲字〕ケリコ叫呼サケヒコ、ハフ 叫喚クツ

〔書言字考節用集〕九言辭サケ叫 喘 號

〔日本靈異記〕中佛銅像盜人所捕示靈表顯盜人緣第廿二略中

叫サケ 向サケ

〔倭訓栞〕前編十さけぶ 號叫をよめり、さかえよぶの義なるべし、かえ反け也、靈異記に响をよみ、

新撰字鏡に嗽をよめり、

〔物類稱呼〕五言語 おめきさけぶと云詞のかはりに、九州及四國にておらぶと云、神代卷に哭聲おらぶと云と有、

いたくこゑをはかりに泣を、おらぶと云と聞えたり、平家物語にをめかせ給へと有は、うめくと

いふにひとしき事にや、東國にておめきさめくといふは、おめきさけぶの轉語か、雨々と泣など

いふ心ならん、

〔倭訓栞〕後編十八わめく 叫喚をいふ、をめくの轉せる也、

〔和字正濫抄〕三叫 おらぶ 日本紀、并萬葉、

〔倭訓栞〕前編十四たけび 神代紀に躡語をふみたけびとよみ、萬葉集に牙喫キカミ建怒タケヒ、又思たけび祝